

---

# 本当の姿

ゆきな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

本当の姿

### 【コード】

N8065X

### 【作者名】

ゆきな

### 【あらすじ】

男爵の家に生まれたマイ・ギルバート。精神年齢は40歳のか弱い15歳の乙女

男爵の家に家に生まれたマイ・ギルバート  
今年15歳にして精神年齢はなんと40歳

何故こんな奇妙な事になったのか

それは今から16年前のある事件からこんな精神年齢になってしま  
ったのである

16年前確かに私は25歳の女でそれなりに恋愛もしたし好きな仕  
事にもつけた

凄く凄く幸せの日々だった

甘い蜜を吸い過ぎたに違いない

じゃなければあんな事件に巻き込まれない

幸福の次には対価のような不幸が待ってる

逆もありけりなはず…だったのに

火の粉のように私に降りかかりそれは広がり私の身を滅ぼした

真っ暗なここは何処？

私はある事件に巻き込まれた月見舞（つきみ、まい）

25歳にしてちよいと物騒なコンビニ強盗に遭遇しちやた人  
宝くじ程度の確率で遭遇してしまった私はどうやら人質として使わ  
れ逃亡する時まで一緒にいたんだが邪魔になり胸を包丁でグツサリ  
やられ死んだ

はずだった

なのに真っ暗な個々は何処だろう  
前まで毎日のように見えていた迷う魂が見えない

なんだか真っ暗な此処に恐怖を感じてきた  
私どうなっているんだ

何時間か何日か

私は猛烈な引力に負けた

寝てたので呆気にとられ放心状態になっていると周りが騒ぎだし真  
っ白な服を着た人が私を叩きだした

なにこの巨人ども…そう口に出そうとして声が出なかった  
よくよく見ると手が小さい  
私赤ちゃんなの…なら泣けてか！

………

仕方なく泣くと周りは安堵のため息を吐く

「~~~~ニーナ~~~~フェッグティアディス」

なにやら分からない言葉（聞き取れない！）を話す人が私を女の人  
のお腹に置く

「ニーナ~~~~アライ~~~~フェッグティア」

なに状況が分からない  
てか言葉が分からない…

### 3 (前書き)

拙い分でごめんなさい

まったく言葉が分からない…  
てか私何で赤ちゃんなんですか!?

そんな状況で困惑している私を白い服を着ている人が体をテキパキと拭いてついでにみたいな流れで、私の手を取り暖かな光を出して私を誰かに押し付けた

……おい待てよ!!今のは何だったんだ!  
何がどうなってるのさ

程なくして私と私を産んだらしい人は別室に案内された

部屋に入ると同じベッドで私と女の方は並んでいた

「ミイリーミイリー、ワツイト」

何言ってるかわからない  
困った、いや焦りがくる…

「リリーリリー、〜アライ〜……フィアツウドウナ!」

ボンツ!と言う音と共に現れた人!  
ドアが無い場所から来ました、ドアは反対ですよ

何だか現実感が無いような…

私はひよっとしたら、死んだのも夢で此は長い夢のお話なのかもしれない！

そうか夢か！なら夢を楽しまなくては

よしよし私は大丈夫よ！夢だから暫くしたらまた何時もの部屋にもどる

「ファイアツウドウナ、ファイアツウドウナ！」

さつき目の前に現れた人が叫びだした

私の夢ファンキーなのね、私もまだまだ若いわ〜捨てたもんじゃないな

そんな悠長に考えていたらいきなり私を抱き締めた

私まだ首が座ってないし頭がやらかいの、グロッキーになるよマジで！

私をそつと奪い私の命を救った人がいた

「~~~~~パパ~~~~~アライ~~~~~」

私に語りかけるように話し問題野郎（危険人になりました）に指を

さしました

ポロポロと泣き鼻水をたらし終いに嗚咽をはいてる  
汚い…なんでもいきなり泣いてんだ

そんな光景を眺めながら

時間が来たようで

名残惜しいように私にキスをして私を生んだ人にはチヨイと濃厚な  
キッスをしていた  
手が早い…

そして手をふりながらまた泣いて目の前で消えた

!!!!!!!!!!!!!!

今の人は生きてたよね生きてたよね！

「アリイ~~~~スイ」またもや困惑している私に私を生んだらしい  
人が語りかけ同じベッドで寝かしつけられた

正直言えば寝たかった、でも寝たら夢が覚めそう  
で何となくこの夢の続きが見れないのは残念に感じ寝たふりをして起  
きていた

私を生んだ人から寝息が聞こえるまで時間はかからなかった

疲れていたんだろっ

一つの生命を誕生させた軌跡とさせるまでの軌跡  
この奇跡はかなり負担な筈だ

生命の命の誕生に感動しつつ、やけにリアルな感覚と出産してないのにやけに細かいなあなんて事を思った

ところで長い夢について考えよう

次も見れるかもしれないし強く念じたら

え〜と、確か私が死んだ事から始まった

それで目が覚めたら真っ暗な地獄（仮）で暫くは地獄に居た

その後には綺麗な女の人の大地のワレ〇から出たはずだ

そしたらあの人はやっぱり私の母親になるわけか、それじゃあ問題

野郎は父親

てか何で父親が目の前で消えたの？魔法なの！！！！

たしか看護婦らしい人に何か当てられたな

やっぱり魔法なのね！

私異世界トリップ大好きなのよ！

最早中二病の域ねこれ  
にしても私を生んだ人

綺麗だったなあ

ついでに問題野郎も顔はよかった

私の夢万歳！

早く目がさめて小説のネタにしたい

色々考えていたら眠ってしまった

でも明日は確か土曜日だから仕事休みだし寝ようかなあー  
もう寝ちゃおう休み何だし

「〜アライ〜」

慈しむような声が聞こえハッと目を開ける  
目の前には綺麗な女の人と美形な男の人  
そして私を見つめる目は優しく、暖かい

いつも欲しかった目

いつも欲しかった慈しむ声

私の存在を認める声

でも望んだ人の顔じゃなくて息が詰まった

違うこの人達じゃない!!!!!!

「う…うああん!!!!!!」

気付いたら烈火のごとく泣いていた  
私の欲しかったのは貴方達じゃない  
お母さん、お父さん、私は此処だよ  
私にまたお母さんとお父さんの声を聞かせてよ

そう思うと涙は止まらなかった

困っている目の前の人に私は無情にも悔しさしか感じなかった

お母さん、お父さん

会いたいよ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8065x/>

---

本当の姿

2011年10月30日02時23分発行